

第4回 静岡市多文化共生懇話会 会議録

- 1 日 時 平成28年7月4日(月)19:00~20:30
- 2 場 所 静岡市国際交流協会 1階 第2会議室
- 3 出席者 多文化共生懇話会委員 8名
王川絹子、小田エリーザ、高畑 幸、土屋 真理、ニアズ アハメド、朴 政浩、
モスタファ モハマド、吉野 恵津子
- 静岡市事務局、静岡市国際交流協会
- 4 傍聴者 なし
- 5 次第 (1)開会
(2)意見交換
「外国人住民の生活上の課題を解決することで、同時に海外からの訪問者にとつても『安心して訪問できるまちづくり』につながるテーマについて」
(3)事務局から
(4)閉会

○土屋会長

それでは議事に入ります。事前に皆様に郵便でお知らせしてありますが、本日の議題は「外国人住民の生活上の課題を解決することで、同時に海外からの訪問者にとつても『安心して訪問できるまちづくり』につながるテーマについて」です。皆様の考えを1人ずつ3分程度でお願いします。

○王川委員

「世界に輝く静岡」は、まさに取り組むべき目標だと感じます。私は中国出身ですが、中国や韓国の若いひとが最近やけに(日本に)来るようになったなと思います。三年前はそこまで大げさに気づくことはなかったけど、最近ではビザの関係で、お金持ちの方だけではなく、ますます多くの一般の方が来るようになってきました。旅行コースの例としては、名古屋-京都-大阪-山梨(富士山)-名古屋といったもの。定番ですね。私も以前、京都で着物のショーを見てとても感動しました。こんなにも美しい着物ショーは初めてでした。「こんなにも着物は美しいのか、こんなにも種類があるのか」と思いました。今までは特に中国人観光客に対しては、お金持ちを対象としたアピールをしてきたと思いますが、こ

れからは一般の観光客向けにアピールする努力をしていかなないとはいけません。それはもちろん日本らしいものもそうなのですが、静岡らしいものを提供するのが一番なんじゃないかなと思います。実は2月に北京の私立の中学生と日本の学生と交流活動があったんですよ。彼らは日本平ホテルに泊まり、三保松原のゴミ拾いボランティアをやりました。最初は皆、特に男の子なんかは嫌がっていましたが、最後は「帰りたくない」と言うほど、楽しんでくれたみたいです。こんなにも反響があるならばと、今度は小学生にも同じプログラムをやりました。そして、日本平のお茶畑で抹茶体験をしてもらい、生徒はみんな真剣に抹茶についての話を聞いていました。この事を基に考えると、私たちはやはり、静岡にしかないものを提供するのが一番だと思います。静岡はお茶のまち。中国のお茶は個性が強く、独特なお茶文化があって、なかなか日本のお茶文化に馴染む機会はない。だけど、日本のお茶を中国人向けに改良するのではなくて、日本のお茶の持つそのままの味と作法を提供すれば相手も気持ちよく受け入れることが出来るんじゃないかな。「きものを着て抹茶体験」とかも楽しいんじゃないかなと思います。

○朴委員

まず、テーマについて見てみると「世界に輝く」という考え方が、素晴らしい理念だと思いました。王川さんと同じように、僕も、訪問者（観光客）に対して「静岡にしかないものが沢山ある」と発信するべきだと思います。例えばちびまる子ちゃんや、ガンダムの工場など。よくヨーロッパや北米の人は日本の土産として、抹茶味のお菓子ばかり買うのですが、それほど抹茶に対しての特別意識を持っているんでしょうね。日本、特に静岡は、静岡にしか出せない味、ハードとソフトの両面で強いものを持っているけれども、どうしてもそれを活かさきれていない。自然条件も大変素晴らしくて、山、川、海、さらには富士山もあるし、贅沢この上ない。もっと言うところ、国際空港と国際の港も持っているわけで、外国人が、上から下から訪れる環境を持っているのです。でも、素晴らしいものがあるにもかかわらず、すごい感じがしない。僕は静岡に生まれ、ずっと静岡育ちのせいなのか、宝の持ち腐れのような気がして、ずっと残念に思っています。静岡オリジナル、やっぱり静岡にしかないものをアピールしていかなないと。僕はプロフェッショナルじゃないので、そういったところは専門的に上手く言えないけど、静岡らしさを外に発信する必要性は十分にあると思う。

また、オールドカマーとして、ここに住み、ここで死んでいく人間として発言したいこともあります。僕は静岡でずっとサッカーをやってきて、サッカーが好きなので、これを例に挙げますが、FIFA（サッカー国際連盟）の規定って、実はすごく厳しいんですよ。ちょっとでも相手への非難や差別があったら、ものすごいペナルティがくる。もう考えられないくらいすごいもの。先日、イングランド vs ロシア戦でサポーター同士の暴動が問題に上がりましたが、これに関しては、自分たちのサポーターがやったにも関わらず、選手たちが重いペナルティを食らうことになった。もちろん FIFA では、「肌の色がどうのこうの」

っていう人種差別は絶対に許されない。僕は外国人懇話会委員になって、今回で3期目になります。委員になった最初の頃はヘイトスピーチやヘイトクライムは無かったです。だけど、近年になって急にヘイトスピーチが目立ってきて、どうしても避けて通れない問題だなど思うようになってきました。ヘイトスピーチなどがあちこちで起きている流れの中で、静岡市でもし、ヘイトスピーチやヘイトクライム的な事が起こったなら、それらに対して、せいか何が言おうが、県が何を言おうが、静岡市だけは絶対にその様な言動に反対するべきなんじゃないですか。第三者の誰にでもわかるような明確な形でそれを押し出してほしいなと思います。厳しく対応することで、ニューカマーやオールドカマーが、この静岡市で安心して生活できると思います。

○小田委員

私の妹や家族が年末年始に日本に来たのですが、静岡を案内するときはどうすれば良いのかって、すごく悩みました。妹の旦那がお茶畑を見たいと言ってきたのですが、じゃあそのお茶畑を見るにはどうしたら良いのか。まずそこから難しかったですよね。幸いお茶畑まで行って、見る事ができて、本当に感動しました。この体験に基づき、観光客や静岡に住む外国人の事を考えてみると、情報に関してもっと配慮するべきだと思う。例えば、病院・防災・観光施設のことなど。今盛んに言われている南海トラフ地震の情報とか。

また京都には、観光客が旅先で病気にかかったり、風邪を引いたりした場合、病院で端末タブレットを使って同時通訳をしているという例があるんですよね。病気があまり深刻な状況のものだと、専門的な知識が更に必要になるかもしれませんが、救急対応として、簡単な同時通訳は、静岡に住んでいる外国人に対しても、外から来る観光客に対しても、助けになるんじゃないかなと思います。例えば静岡では病院で、国際交流協会が限られた言語で同時通訳を担当するとか。つい先日、私も静岡市立病院に診察に行きましたが、最近では薬自体をそこで処方しなくなったんですよね。外に行かなければならない。静岡に住んでいる外国人がもし日本語が分からない場合、そこでまた困ってしまうし、あるいは、外から来るお客さんも、そのような日本の社会の仕組み・制度を分かっていないので困ると思う。なので、病院で簡単な同時通訳をすることで、例えば来院した人が「風邪を引きました」と伝えたい場合、少しは力になるんじゃないのかなと思います。

あるいは、観光施設などで簡単な日本語で音声流すとか。静岡をアピールするために、スライドショーやビデオ、写真や体験談とかで案内や紹介をしたらどうなのかな。そういうのがあると、静岡に住んでいる外国人の人たちも、観光施設に行ったときに「あ、静岡にはこんな素晴らしいところがあるんだ」と知ることが出来る。音声を流しながら、視覚的に発信することも、静岡の魅力を最大限にアピールできる方法なんじゃないかなと思いました。

○吉野委員

御三方が仰ってくださったように、本当に静岡は、お茶畑、ミカン畑、富士山、更には川も海もあって、静岡空港までは50分あればバスで行けるといった環境にある。陸・海・空、それらの全てがある程度整っているにも関わらず、やはり静岡人気質というか…自分から「こうじゃなくて、こう」と、はっきりしたことが言えない様に、静岡の良いところがアピールできていないと思う。静岡は東京みたいに本当に大きい町じゃないのに、コンパクトにいろんなものがそろっている。70万人くらいで、本当にちょうどいい町だと思うんですよ。やっぱりPRの仕方ですよね。先ほどまでに色々な意見が出ましたが、PRをどこに向けたら伝わるのか考える必要があると思います。実際に私たちが静岡で観光すると想定しましょう。ちょっと時間に余裕があるから、東海道線を乗り継いで、清水駅で降ります。さて、どこに、どう行こうかと考えている時、案内所が分かりやすいところにあつて、そこでは「この場所に行ったらこうだ」という内容をまとめた簡単なビデオやスライドショーとかで見ることができたり、お茶に関して「ここに行けばお茶摘みの時期じゃなくても、お茶畑が見れるとか、お茶が飲める」といった情報を常に提供してくれる。そういう施設や環境を整えるっていうことが必要だと思うんですよ。

たまたま昨日テレビを見ていたら、静鉄の清水駅周辺の案内で、二千元か三千元で、バスに乗って、船に乗って三保まで行けて、河岸の市でお食事までとれて、観光地の入園もセット券がついているっていう情報を見ました。そういう事も、私達静岡市民でもなかなか知らないで、そのような情報をもっとPRして、どこに行っても、「こんなお得な情報があります」と案内できるように、体制を整えていただきたいなと思うんですね。

それと、日本の文化や生活がどのようなものか、海外から来た人は知りたいと思うんです。私のところに来る日本語の学習者も、それをよく言うんです。ホームステイという、外国人と何日も一緒にいるっていうので大変だと思うかもしれないけど、ホームビジットという形で、「じゃあ今日半日私と一緒にうちに来てください、一緒に行動しましょう」という気楽に受け入れてくれる人が増えてくれればいいと思います。国際交流協会もしくは多文化共生課で、そういう人達（ホームビジットを受け入れてくれる人）を登録・管理して、海外から来た人たちが、そこに連絡すれば日本人と一緒に話をしたり、お茶も飲めるっていうシステムみたいなのが出来ればいいなと、うちの日本人の先生達の中で話ができています。本当に静岡は気候も良く、富士山も見ることができて、本当にいい町。規模も大きくもなく、小さくもなく、田舎でもなく、都会でもなく、本当にちょうどいい町なんですよ。

神社や仏閣も多いのに、日本人が神社や仏閣に行かなくなっているという現実も一つ問題でもあるんですよ。外国人からしてみれば「お寺や神社のなだらかな造りが、キリスト教の高い天に届くような塔よりも、遥かに美しい」と思えるみたいで。そのような点を日本人自身が知らない。私たちがそれらの良さに気付かずに、今まで過ごしてきたために、お寺に行く人も、神社に行く人が少なくなっているというのが現状だと思います。京都みたい

に有名なお寺は数多くないけれども、神社・仏閣の各々の良いところを発掘して、「このお寺に行けば、お茶も飲むことができる」とか、情報を添えて案内するべきだと思います。今までにいくつかの観光スポットが単発的に翻訳をされ、案内が出ているには出ているけど、実際そこに行くのに、交通手段が不便だったり、地図が分かりにくかったり、バスが一時間に一本しかなかったり、そういう不便もあつたりします。例えば循環バスがあつて、均一料金ですつと行けるっていうシステムをせめて土日だけでも導入できるように構築していただきたいと思ひます。

○ニアズ委員

観光客が来るときは、やはり静岡をアピールしなさいいけない。私がやはりそのように感じた出来事が、つい最近ありました。5月15日から20日まで、バングラディッシュ「地方都市行政能力強化プロジェクト」においてバングラディッシュの26の市長達と行政の方4人、合計30人が静岡に滞在しました。私はバングラディッシュ料理店を持っていて、そのイベントで料理を出すため、彼らの来静を前もって知っていました。市の職員が、どこを視察させるか、どのような勉強（セミナー）を提供するかを全部取りまとめていたので、自分は必要な時だけ手伝いをさせてもらおうと思ひていました。バングラディッシュの市長たちは、静大、ごみ処理場、市役所などを訪問して、いろんなことを学んだのですが、静岡らしいもの、静岡にしかないものは何も見せられていなかった。そこで私はJICAに無理やり相談して、せつかく日本に来るのだから、静岡にたくさんいるバングラディッシュ人に会わせて、我々がどういふ生活をしているか見せたいと言ひました。実際、そうやって現地の人と会わずに、ただ講師と対面してセミナーを受け、ホテルに泊まって、ホテルの部屋からバングラディッシュに電話して一日を終えてしまう。このままだと、彼らは自分たちがどこに訪れたのか、行った場所の名前さえも分からなくなってしまうでしょう。だから17日の夜に、無理やり「親睦会」という形で私の店でイベントを開くことにしました。そこではたくさん静岡の人たちと会ってもらひました。

彼らの来静中の行動先には、静岡の良いところ、例えばお茶、山、海という場所は全く含まれていない。連れて行かれたのは、南部じまん市（JAの市場）など。彼らは出張ですから、市場とかは見たことあるんですよ。そういう売り物を見ること自体は、彼らにとって勉強にならないんですよ、何も。静岡にはこういうお茶畑があつて、海があつて、港があつて、ここに来るとこういう便利さがあるんだよというのを、もっと教えてあげるべきだったんじゃないのかな。静岡の魅力を理解することで、彼らは静岡に移住することに憧れを持ったり、また日本に来た時はぜひ静岡に行こうと思ひえるんですよ。

勉強の面では、彼らは静大、ごみ処理場等を訪れましたが、通訳は30人に対して4人だけでした。日中は通訳者がいましたが、夜は誰も付いていない。だけど皆の本心は、買い物に行きたい、あちこち行きたいんですよ。けども、静岡に住むバングラディッシュ人たちは、市長たちの訪問について、連絡が行っているわけでもないの、彼らを助けられ

るのが私しかいなかった。ある一人の市長は「バングラに電話したいから、電話を貸してくれ」と私のところに来たり、別の人は「こういう物を買いたいから、一緒に来てくれ」といった要望もありました。私自身、彼らの滞在中、ずっと夜は店を閉めていたんですよ。店を閉めて、彼らに付き合った。でも全員の面倒をみることもできないし、私も体が一つですから、毎日いっぱいいっぱいでした。

「たくさんの静岡在住のバングラディッシュ人に彼らを会わせる」という点が、今回市がやるべき仕事で欠けていたことだと思いました。そういう事をしないと、通訳だけではなかなか足りないと思う。市長の誰かがこっちで清水港のことを聞いてきたとしましょう。そうしたらその近くに住むバングラ人が、じゃあ夕方からそこに行きましょうって行って連れて行くことだって可能だったはず。自分たちの出身国からお客さんが来るのであれば、その人たちをもてなすのにお金なんていりませんよ。ボランティアで出来ますよ。まずは協力するために、情報位は出してくれないと。それはもったいないことをしたなと思いました。今回の場合、もし私のレストランに尋ねてこなかったら、この人達どうなっていたのでしょうか。逆に、私たちは助けることもできなかったでしょうね。静岡にはバングラディッシュからだけでなく、いろんな国から人が来ていると思うんですよ。市でいろいろ交流していますしね。だけど、うわべだけの交流やご飯を共にするだけで、あとはホテルに泊まらせるって。…それでは深い絆が築けないと思うんです。そして、静岡のアピールも何もできていないと思う。彼らはアソシアホテルに泊まっていた為、私の店まで歩いて来る時に、「しずおかの街中」を見られたんですよね。普通に事業のなかで街を見る時間が無いんですよ。また、彼らは夕食を自分たちで取ったのですが、うち（バングラディッシュ料理店）の店が閉まっていたから、普通のバングラ料理しか食べられない人は結局、あんまりご飯を食べられなくて、パンとバナナだけ食べていたってこともあったんです。我々静岡に住むバングラ人達と、もっと情報交換していれば、このような事も避けられたんじゃないんでしょうか。静岡市の国際交流協会を通して、たとえば、何月何日にバングラ人何人とか、アメリカ人でも、フィリピン人でも、「何人訪問する」と決まったのならば、「誰か手伝う事が出来ますか。このホテルに泊まるので、出来たら時間を作って彼らと会ってくれませんか」という声かけが今後必要じゃないでしょうか。その方が静岡をアピールしやすくなるでしょうね。訪問者たちは私たちの生活ぶりを見て、こういう形で生活しているんだと理解でき、「また静岡に来ることになったら、ここに行こう」とか、「今後住むことになったらこういう仕事も静岡で出来るんだ」という参考になります。こうやって訪問者と静岡在住の外国人を交流させることも、静岡をアピールする大事な手だと思いました。

○高畑委員

私からは主に3点あって、一つ目は静岡市の一番良いところで、治安がいいという点。安全で安心することです。これは訪れる人にとっても、住む人にも魅力。だから「安全で治安の

良い「静岡県」を皆で守りましょうというスタンスで、それを一つの求心力にすれば良いんじゃないでしょうか。今色々なデータを見て、『政令指定都市の犯罪発生率ランキング』によると静岡県は下から3番目なのですが、他にも安全を示す指標というのがあると思うので、それらを出して、この安全を皆で守ろうと打ち出すのはどうでしょうか。安全の中にはもちろん防災もあるし、先ほど朴さんが言っていた、ヘイトスピーチのような人に対する攻撃を許さないということも含まれます。国レベルでもヘイトスピーチの規正法が成立したし、大阪府がちょうど今月1日からヘイトスピーチの規制条例全面施行を始めました。国レベルでも他の自治体でも体制がしっかり出来つつある。静岡県でも、条例、あるいは宣言でもいいと思うんです。「多文化共生都市宣言」とかね。そのようなものを打ち出してほしいなと思います。これが安全の面で一点。

2つ目は、小田さんも言われたんですが、ことばの壁っていうのがどうしてもあるので、タブレットを利用した二者の対面的な通訳システムなどを、公共施設あるいは観光施設など出来るだけ多くのスポットに設置して、言葉のバリアというのを出来るだけ少なくする。これは本当に最低限に必要な事だと思っています。

3点目に関しては、前にも言ったかもしれませんが、静岡市に長く住んでいる人、静岡市に貢献している外国人を表彰する制度があったらいいなと思うんですよね。今日の問いかけの中に、「暮らしている外国人自身が住んでいる『静岡県』を誇りに思う」とありますが、逆に静岡県も、住んでいる外国人、特に観光やボランティア通訳、まちづくり、町内会、教育など、「あらゆる分野で静岡市に貢献している外国人」を表彰するなど、目に見えて多くの人を知るシステムがあると、周りに住んでいる日本の方も「こういう人いるんだ」と認識するし、逆に「自分も将来的に表彰されたいな」という外国人も出てくるかもしれない。色々な良い効果が出るんじゃないかなと思います。

○小田委員

さっきの事に追加なんですが、例えば通訳の面で専門知識が無いっていう場合もあるし、限られている範囲で対応していくのが大事です。例えば病気にしても、色々な病気があるし、ずっと通院することもある。その場合はやっぱり患者自身で通訳を頼むべきですよ。ただ、入口として誘導するために同時通訳することで、力になるんじゃないかなと思います。じゃないと最後まで通訳を担当するとなると、ある程度専門的な知識が必要だし、同行しないといけないし、限界があるんですよね。

○モスタファ委員

外国人が日本に来る前、色々調べにHP、Facebookといった媒体をチェックするんですよ。その時に、「ああ静岡っていい所だな」って思ってもらえるような作りをもっとしないといけないと思います。多言語を扱っているとか。そういう工夫が必要ですよ。

○土屋委員

「富士山が見たい」と思って静岡に来て、天候が悪くて富士山が何も見えなかった場合、どこに行ったらいいかわからないってことありますよね。

○朴委員

東北の友達とかが静岡に来た時に、どこに行きますかって話になって、「正直どこもねえよ」ってなる。でも、静岡市民の僕で思うのだから、どうしたらいいかって考えるんですよ。ハッと思ったのが、僕らは観光県に住んでいるんだよという事を再認識しないといけない。そのためには、行政から、民間で働いている人、住んでいる人全員がそのような意識をしないといけない。一番いい方法は京都から色々な事をパクってしまうこと。彼らは観光がないと食べていけないから、本当。僕もときどき京都に行きますが、街は店に入れないくらい、中国人で溢れている。もちろん他の国から来た外国人も非常に多い。そんな中で、お店側の対応もすごい。漬物屋さんで“I can speak English.”という看板を持った娘がいた。要は民間の意識がすごいんですよ。金を落としてもらおうための努力がものすごい。英語や中国語を話せる人がゴロゴロいる。一方で僕ら静岡人は、何をしたらいいかわからないから、動けてない。静岡が自然に対する観光客が多く訪れるのに対し、京都は人口建造物の観光客が多いんですよ。神社仏閣など。だから、その建物に関する歴史の勉強や、説明するために語学の勉強をする。静岡は努力をしてなくて、自然の財産だけに頼っている。僕が本当に静岡県民やだな、静岡市どんくさいなと思うことが、静岡の紹介で二言目には「富士山」と出てくるところ。必ずと言っていいくらい。それに静岡市は、三保松原を富士山を眺めるだけの場所と思っているんです。でも御殿場とかに行くと、富士山は自分の住む場所と見ているです。ところで、富士山の登り口っていくつあるかわかりますか？4口あるんですよ。そのうち3口が静岡県側であって、富士スバルライン5合目っていうのだけが、山梨県側にある。でも山開きは山梨が一番にどんどんやっちゃうわけ。もっと悲しい事実として、年間の登山者の半分以上が山梨から登っているんです。静岡に3つ口を持っていて、山梨を上回らない。なぜ？— 要は山梨側は5合目までバスで行けちゃうんです。だから東京の連中はみんな山梨側から登るんですよ。ただ、本当のクライマーは静岡から登る。そっちの方が、0合目から10合目まで行けて面白いから。でも、ツアーリストのほとんどは山梨側から登るんです。これはもったいない。静岡の観光全体にこれと同じことが言えると思う。せっかく持っている宝なのに、使いきれていないってね。皆さんもご存知かと思うけど、今横浜に船が入れないから、豪華客船が清水に入ってきたりするんですよ。そこでタクシーが何百台と捕まっちゃうから運転手が足りなくなるっていう事態になりますけどね。民間はお金を落とすために、色々なアイデアを出したり、アンテナを張って対応しているんです。行政の方も、民間企業を抱きかえることも大事だよ。だって静岡のためにやろうよってことなんだから、官民が一緒になって同じ目標に取り組まないと。京都でやっている事を真似しようとしても民間だけではお金の面が苦

しいし、行政だけでは力不足になってしまうし。

○土屋会長

そういえば静岡はWiFiスポットが少ないよね。

○ニアズ委員

WiFiスポットがあっても、パスワードが分からないから、アクセスできないという場所がよくある。レストランや施設に設置されているWiFiはどこかのキャリア（ドコモ、ソフトバンク、auなど）に対応していて、そのキャリアの携帯じゃないとWiFiスポットでもアクセスできないようになっている。本当に使いにくい。市がそれを全部把握しているかつてことが疑問なんだけど。フリーアクセスWiFiの設置が遅れている。

○土屋会長

静岡に観光に来た人は、ごみを捨てる場所にも困っているんだって。静岡市は道にごみ箱が置かれていないですね。だからどこに捨てたらいいのか分からない。

○ニアズ委員

食べるころとか、そういう場所じゃないと今はゴミ箱が設置されてないんですよ。でもゴミをそのまま道なんかには捨ててしまうと、鳥なんか荒らして道を汚くしてしまうからそれはそれで問題で。だから、ゴミに関しては、ホテルとか誰かの家に捨てさせてもらうとか、コンビニとかで捨てるしかないんだよね。コンビニも今は店内にゴミ箱を設置してますけど。

○小田委員

日本人には歩きながら食べるという文化があんまりないから。歩いていて「ゴミを何処に捨てよう」と困ることがないんですよ。

○ニアズ委員

うん、だからもしゴミが出たら、例えばお菓子を食べてゴミが出たら、ポケットに入れといて、コンビニのゴミ箱に捨てるっていう事を教えてあげなきゃ。それは私たちが静岡に住む外国人もやっていることだから。

○小田委員

例えばブラジルでは、ハンバーガーを階段やどっかに座って食べたり、アイスを食べながら食べたりしますが、日本人はしませんよね。

○朴委員

外国人観光客を召致するために、そして観光客のためにいろいろおもてなしはするけれど、観光する外国人も「郷に入れば郷に従え」という意識でマナーある行動をしないとね。静岡、日本のルールがあるんだから日本を訪れる人は守らなきゃだめ。それは大原則。僕なんかは在日の生まれ育ったものとして、感覚はほとんど日本人なんだけども、外国人の感覚も少しは解る。でも、結局ルールは守ろうってことです。

○ニアズ委員

外国人は滞在時間が短いじゃないですか。大抵は1週間～2週間の滞在ですよ。彼らはルールとか言われても、自販機でジュースを買って、その場で飲んで、ごみはすぐに捨てたいわけですよ。そもそも外国人って日本人みたく物を持って歩かないじゃないですか。鞆すらも持たないので。だから彼らが、手にゴミを持っているってなかなかできないこと。

○朴委員

どこかの大学の文献で、ごみは何秒持っているかっていう実験結果が書いてあったけど、人は手にしているものが、ごみになった途端、20秒しか持っていない。そういう物らしいですよ。

○土屋会長

あとね、静岡市には色々おいしい物があるけど、苺もいよいよね。

○朴委員

だからね、そうやって宝物がいっぱいあるわけ。静岡には。

○王川委員

でも大抵静岡は、ツアーで宿泊先になるような場所じゃない。通り過ぎる場所になっていますよ。

○朴委員

中国人のツアーなんて、いつもゴールデンルートの名古屋→御殿場→東京を通るじゃないですか。だから静岡の小さいツアーなんかをもっと増やしてもいいんじゃない。

○ニアズ委員

そういう小さいツアーは民間がやっていますよ。12月～3月までの4か月間、中国人とかイスラム系の人とかが、三重から来て、静岡に来てうちの店でご飯食べて、東京行くっていうツアーがある。でも規模は本当に小さいですよ。でも、リピーターになるのは小さい

ツアーに参加して地域の事を良く知った人達だと思っうんですよね。

○朴委員

静岡って日本一が意外と多くて、マグロもそうだし、お茶なんかも。住んでいる人のほうが、よっぽど静岡の事を大切に思っないから、結構アピールが弱いんです。さっき高畑先生が言っったように静岡はオリジナルいっぱいある。プラス、外国人にやさしいよ、ヘイトスピーチ・ヘイトクライムは絶対に許さないよという様な事を実現できれば、僕はもっともっという静岡になると思っう。今こうやって騒がれているスピーチが最初に始まったのは、群馬県で、フィリピーノを罵るスピーチがきっかけなんです。それが今やコリアンが標的になっているのだけど、じゃあ次はチャイニーズにいくの？またフィリピンに戻るの？ブラジル人が標的になるの？今はたまたまコリアンが対象になっているけど、ヘイトスピーチってそういう悪質な事を許しちゃっていいの？日本人と外国人って共通の言葉があるわけじゃないので、目に見える形でヘイトスピーチを取り締まっっていかないと。観光のアピールをもうちょっと具体的に目に見えるような形で取組み、ヘイトスピーチの無い、安全な静岡になって、人が集まるようになる。70万人なんて数字でなく、もっともっとう人が集まるようになる。そして、フレンドリー都市として外にアピールしていったら世界中の同じ概念を持っている都市ともコンタクトを取っらうこともでき、人の行き来が可能になるんじゃないかな。

○ニアズ委員

そういえば、土屋会長の「富士山を見ようと思っっていた日に雨が降っっていたら、どこに行けばいいか」という質問に対して答えが出っ無かったよね。登呂遺跡なんかはどう？今外国語に翻訳されたパンフレットもあるしね。そこに富士山の絵もあるよ。

(一同笑い)

○土屋会長

ご意見ありがとうございます。時間になりましたね。これで本日の懇話会の議事を終了します。皆様ありがとうございます。